

聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 387 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

発行人：牧師 司祭ステパノ卓志雄
編集人：リチャード倉辻明男
セバスティアーノ林圭佑

「信仰を確認する旅路！」

牧師 司祭 ステパノ 卓志雄

聖アンデレ教会に赴任して初めての大齋節と復活日を過ごしました。今年のテーマは「原点回帰・礼拝について考える」、そして「聖職の原点について」「今こそ聴こう、礼拝について」「聖餐式における役割の再確認」というサブテーマを通して、共に学びを深めました。また大齋プログラム「今こそ聴こう、礼拝について」のアンケータに基づくQ&Aシリーズを四月二十七日から、第二主日を除く毎主日の週報に掲載すると同時に、礼拝後にワンポイント解説も行っています。

礼拝の所作、祈祷書の文章、教会に通っている意味などに対して「なぜ？」という疑問を持たず、その意味合いについて深く考えないで、全てが当たり前のように過ごしていました。ところが、あらためて疑問をもって礼拝と教会生活について考える時間を過ごすことができました。

わたしたちの信仰も同じです。なぜわたし（たち）がイエス様を信じているのか、当たり前すぎて疑問を持たずに歩んできたかもしれません。疑いのないまま。

復活節第二主日はA、B、C年いずれもヨハネによる福音書二十章十九〜三十一節のみ言葉が用いられます。この箇所にはイエス様の弟子の一人であるト

マスが登場しますが、「疑い深いトマス」や「トマスの浅い信仰」など否定的に解釈する傾向があります。しかしそのような伝統的な解釈に縛られる必要はないと思います。実は、この話は信仰が浅いトマスに焦点を合わせた話ではありません。イエス様に直接会ったことがなくとも信じる人々、また当時から見て未来の信仰者であるわたしたちに対する幸福宣言文のような話なのです。

そして「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」という言葉はトマスの疑いを表した言葉というよりは、明らかに死んでしまったイエス様が本当に復活されたのかどうか感覚的に決定的な証拠を要求する言葉であります。単純な疑いや信じたくないという意思の表明ではなく、人間の論理を乗り越える、イエス様の復活を確認したいという切実な願いであったと思います。したがってトマスは浅い信仰の代名詞や疑い深い人の代名詞というよりは、「事実を確認するとき、感覚を優先する」パターン「の代名詞、あるいは「自分なりの方法でイエス様に出会いたい、神様を体験したい」人の代名詞であるとみても

無理はないと思います。さらにヨハネによる福音書の中で唯一の幸福宣言である「わたしを見たら信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」というみ言葉を通してイエス様がわたしたちに要求しているのは、信仰の対象を確認しようとするとき、人間の感覚にのみ寄り頼むのではなく、五感を乗り越えて、見えない存在に対する絶対的信頼をおくことが信仰者の幸福だということです。

最後にトマスの「わたしの主、わたしの神よ」という完全な信仰告白からもう一つの教訓が考えられます。それはイエス様の愛弟子あるいはマグダラのマリヤのように、しるしを要求しない完璧な信仰もイエス様の復活を体験することができ、またトマスのような実際的で感覚的なしるしを要求する信仰でも、ともに偉大な信仰告白に近づくことが可能なので、信仰においては絶対的に正しい道は一つだけとは言えないのです。皆さんは今どのような信仰を持っていらっしゃいますか。その信仰の道がどうであれ、わたしたちが持っている信仰の確認方法は絶対的で四角四面なものではなく、神様がそれぞれに用意された様々な旅路であるべきことを忘れないでいた

JESUS

復活日報告

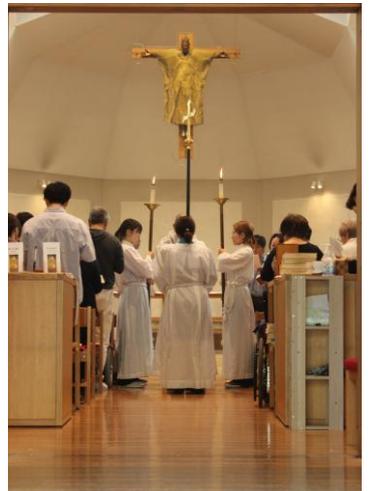
キャサリン鈴木祐美子

今年の復活日は四月二十日。卓司祭、佐久間執事をお迎えしての初めての復活日礼拝でした。復活日前日には小雨振る中聖オルバン教会と合同で棕櫚の行列が行われ、子供たちは大学生高校生のお兄さんによってもらいイースターガーデン作り。聖木曜日は洗足式。私は初めて洗足式に出席し、司祭に足を洗っていただきました。(出席者一五人)ピンと貼りつめた雰囲気の中で、これから一年イエスの教えを実践する私たちが有りたいと感じました。礼拝後、翌日の受苦日の準備のため聖堂内の十字架ろうそくなど全てのものを片付けました。

聖土曜日はイースタービジュアル。洗礼の更新の礼拝です。(出席者三五人)

いよいよ復活日。聖三日間の厳かな時間を過ごした後の喜びにあふれた一日でした。十時半の聖餐式では(出席者一六八名)かわいひ赤ちゃん(出席者一六八名)の洗礼式が行われ、卒入学のお祝いも聖堂で行いました。午後はボーイスカウト、ガールスカウトとともに「こどもとともにささげるイースター礼拝」をお捧げしました。(出席者一六〇名)礼拝後は恒例イースターエッグハンティングで盛り上がりました。子どもたちはイースターエッグハンティングが大好きです。

最後になりましたが、棕櫚の十字架作り(三五〇本)、イースターエッグ作り(四五〇個)など多くの方々に沢山のご奉仕を賜りましたことを心から感謝申し上げます。



洗礼・堅信・初陪餐

洗礼、初陪餐について

オーガスチン高木悠理

二〇二五年三月三〇日に受洗した高木と申します。三年程前から友人の影響でキリスト教に関心を持ち、幾つかの教会へ行く中で聖アンデレ教会に出会いました。聖アンデレ教会の聖餐式に参加しながら、自宅でも聖書を読み進める中で洗礼を受けたいと考えるようになりました。卓先生に相談したところ勉強会を行っていたので、キリスト教への理解が深まると共に、洗礼を受けたいという気持ちが強くなっていきました。実際に洗礼、初陪餐を受けてみて、洗礼前にサポートしてくださった方々への感謝と同時に、今後はクリスチャンとしてイエス様の御心に沿った行動をしなければならぬと強く感じております。

人生の新しい出会いと歩み

ミカエル村山輝

小さいころから、親に「目標を胸に、自分に厳しくひたむきに歩むこと」を教えられました。幾度も困難に向き合いながら、恵みのように与えられた機会を重ね、今日の自分が育まれました。

昨年末、ふと足を止め、歩んできた道を静かに見つめました。そして「ただ厳格に成し遂げるためではなく、心を柔らかく豊かにし、誰かの灯となるような生き方」を願うようになりました。

その折、幼い頃親しんだキリストの教えが、胸の奥でそっと目覚めました。導かれるように聖アンデレ教会の礼拝に参加しました。卓先生との出会い、学びの時を経て、信仰の道へと心をひらきました。

三月三十日の洗礼式を経て、新たな歩みを授かったことに、深い感謝を抱いています。

皆様と心をひとつにして

ヨハネ鄭然準

こんにちは。去る三月三〇日の洗礼式と共に執り行われた「受け入れ式」において、日本聖公会ならびに聖アンデレ教会のメンバーとなりました。ジョン・ヨンジュン(洗礼名・ヨハネ)兄弟と申します。

私は韓国からの留学生としてしばらく日本に滞在しておりますが、日本にいる間、この地のキリスト者の皆様と心をひとつにして主に礼拝をおささげし、日本聖公会の信徒の皆様と共に聖餐の恵みを分かち合うことができ、心より感謝申し上げます。私は韓国の他教派(長老会)にて

洗礼を受けましたが、日本聖公会に導かれ、祈禱書や聖歌、そして毎週の聖餐式を通して、大きな恵みをいただいております。

これからも感謝の心をもって礼拝に臨み、日本聖公会での信仰生活を通して、より深くキリストの御姿を学び、仕える者となれるよう努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

次女の洗礼式を終えて

アンデレ走出洋平

桜の咲く春の晴天に恵まれた三月三〇日に、次女・真伊花(まいか)の洗礼式を執り行っていたいただきました。洗礼名は真伊花の叔母である窪田理花と同じスザンナの名前をいただきました。どんな状況でも信仰を貫ける人であってほしいという想いと、理花の存在をずっと心に留めておいて欲しいという願いを込めました。

洗礼を授けてくださった卓先生、名親になつてくださった村田信子さん、山崎徳寛さん、山崎理沙さん、そして温かいご祝福をいただいたすべての皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

妻と出会い、アンデレ教会に通うようになり、二人の子どもに恵まれ信仰の道に生きる皆様とご縁をいただけたこと、全ては神様のお導きによるものだと思っております。

神様に見守られながら、これまで私達家族が歩んできた道のりが、アンデレ教会の皆様と交わりながらこれからも積み重なっていくことを願っております。

幼児洗礼式

ダビデ柳生治人

二〇二五年四月二十日イースターの主日、わが家の第二子・長女である麗奈の幼児洗礼式を執り行って頂きました。卓司祭を始め、多くの教会員の皆様、教父母のルシア松下ノエルさん、私の父・ヨハネ義人と母・マーガレット恵に見守られる中、麗奈はとても穏やかな表情で、ソフィアの洗礼名を授かることができましたこと、心から喜びを感じてお



棕櫚の行進 オルバンと合同
四月十三日(日) 十時半の礼拝冒頭で、聖オルバン教会と合同で「棕櫚の行列」を行いました。



バラの主日の洗礼式
バラの主日である三月三十日、聖餐式の中で四名の方がそれぞれ「洗礼」「初陪餐」「日本聖公会への交わりへの受け入れ式」を通して日本聖公会東京教区聖アンデレ教会の一員になりました。

軽井沢では毎年八月一日に「ショー祭」が開催されます。カナダ人宣教師、聖アンデレ教会の創立者、アレクサンダー・クロフト・ショー師が、さわやかな空気と緑の草原、気候が、故国スコットランドに似ている事に感嘆し、一八八八年(明治十一年)に別荘を建て、人々の集まりの場所となり、礼拝堂が建てられ、避暑地軽井沢の歴史が始まりました。その後、軽井沢のナショナルトラストがその環境を守り感謝を受けつぐ為に毎年八月一日にショー祭で礼拝が守られています。一八九五年に礼拝堂の原形が出来、一九二二年(大正十一年)に現在のような建物になり今に至っています。礼拝堂横には一九八六年(昭和六十一年)に



聖アンデレ教会の足跡第十一回
二〇一三年軽井沢ショー祭
歴史資料整理係

「ショーハウス」が建てられました。記念館内部の展示には、聖アンデレ教会の信徒、関谷友彦兄が尽力されました。その時の司祭笹森先生もこの年参列されました。

教会行事案内

- ・五月二十九日 昇天日
- ・六月一日 創立記念日礼拝
主教巡回日
- ・六月八日 聖霊降臨日
- ・六月二十九日 聖オルバン教会
合同礼拝
- ・六月二十八日 教会にジャズが来た
- ・八月上旬 バザー献品受付開始
- ・八月十八日(月)〜二十一日(木)
教区中高生世代キャンプ
場所…シャロームロッジ
- ・八月十五日(金)〜二十一日(木)
教区青年会「小笠原の旅」
- ・九月十四日 敬老感謝の集い
- ・十月十九日 チャリティバザー

コイノニア

- ◇毎主日週報が発行されています。
教会ホームページでご覧いただけます。
FAX・郵送をご希望の方は事務所までご連絡ください。
- ◇牧会訪問、自宅や病床での陪餐、ご家族・少人数での礼拝や記念式への参加を希望される方は教会までご連絡ください。
- ◇教会への月約献金・感謝献金は郵便振替をご利用ください。

ゆうちょ銀行 00160-1-91168
日本聖公会 聖アンデレ教会



聖アンデレ教会
フェイスブック



聖アンデレ教会
ホームページ